

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国11年7月) ～基準改定後のコアCPIは2年7ヵ月ぶりに にプラス転化

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コアCPI上昇率は2年7ヵ月ぶりにプラス転化

総務省が8月26日に公表した消費者物価指数によると、11年7月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI）は前年比0.1%（6月：同▲0.2%）と、08年10月以来2年7ヵ月ぶりのプラスとなった。事前の市場予想（QUICK集計：▲0.1%、当社予想は0.0%）を上回る結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.5%（6月：同▲0.8%）、総合は0.2%（6月：同▲0.4%）となった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

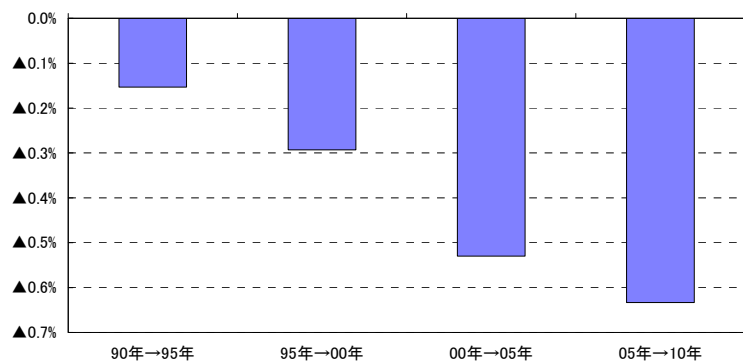
	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
10年 4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4
5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	▲1.4	▲1.5	▲1.4
6月	▲0.7	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.3	▲1.4
7月	▲0.9	▲1.1	▲1.5	▲1.2	▲1.3	▲1.4
8月	▲0.9	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.1	▲1.4
9月	▲0.6	▲1.1	▲1.5	▲0.6	▲1.0	▲1.3
10月	0.2	▲0.6	▲0.8	0.3	▲0.5	▲0.6
11月	0.1	▲0.5	▲0.9	0.2	▲0.5	▲0.6
12月	0.0	▲0.4	▲0.7	▲0.1	▲0.4	▲0.5
11年 1月	▲0.6	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲1.0
2月	▲0.5	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲0.9
3月	▲0.5	▲0.7	▲1.4	▲0.7	▲0.8	▲1.0
4月	▲0.4	▲0.2	▲1.1	▲0.7	▲0.5	▲1.0
5月	▲0.4	▲0.1	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.6
6月	▲0.4	▲0.2	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.7
7月	0.2	0.1	▲0.5	0.1	▲0.1	▲0.4
8月	—	—	—	▲0.2	▲0.2	▲0.6

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

消費者物価指数は今月分より2005年基準から2010年基準へと切り替えられた。基準改定に伴いコアCPI上昇率は▲0.6%ポイント下方修正され（11年1月～6月の平均）、前回の基準改定（2000年→2005年：▲0.5%ポイント）を若干上回る下方改定幅となった。

コアCPI上昇率は旧基準では11年4月に2年4ヵ月ぶりに上昇に転じた後、6月までプラスを続けていたが、新基準ではこれらが全てマイナスとなった。新基準のコアCPIは旧基準よりも3ヵ月遅れてプラスに転じる形となった。なお、参考として公表された旧基準の7月分は前年比0.7%となり、新基準の上昇率を0.6%ポイント上回った。

消費者物価上昇率(生鮮食品を除く総合)
基準改定による改定幅の推移

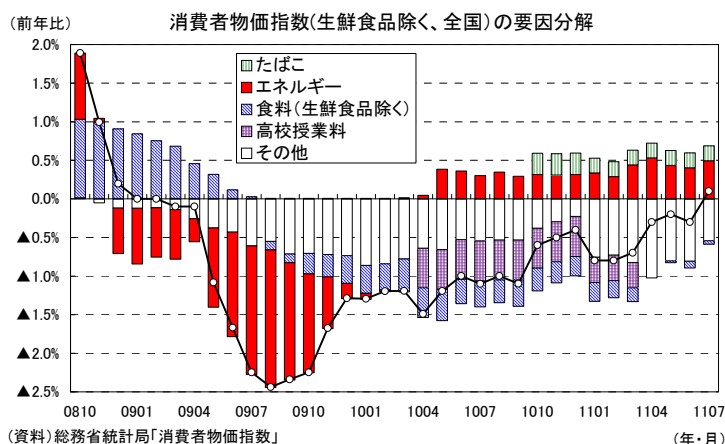


(注)各改定年次翌年1～6月の差(新基準・前年比-旧基準・前年比)の平均値

コア CPI の内訳をみると、灯油（6月：前年比 18.9%→7月：同 18.7%）の上昇幅は若干縮小したが、電気代（6月：前年比 2.5%→7月：同 3.2%）、ガス代（6月：前年比 2.2%→7月：同 2.4%）、ガソリン（6月：前年比 7.1%→7月：同 10.2%）の上昇幅が拡大したため、エネルギー全体の上昇率は6月の前年比 4.9%から同 6.1%へと拡大した。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲0.2%（6月：同▲0.3%）と3ヵ月連続で下落し、下落幅は前月よりも若干拡大した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.49%（7月は 0.40%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.04%（6月は▲0.09%）、たばこが 0.19%、その他が▲0.54%（6月は▲0.81%）であった。



2. コア CPI のプラス転化は一時的、秋以降は再びマイナスへ

8月の東京都区部のコア CPI は前年比▲0.2%（7月：同▲0.1%）となり、下落率は前月から 0.1ポイント拡大した。事前の市場予想（QUICK 集計：▲0.1%、当社予想は 0.0%）を下回る結果であった。

エネルギー価格は上昇率が若干高まったが、これまで上昇を続けてきた被服及び履物が前年比▲0.5%と 11ヵ月ぶりに下落に転じた。東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.29%（7月は 0.25%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.06%（7月は▲0.06%）、たばこが 0.15%、その他が▲0.58%（7月は▲0.35%）となった。

7月の全国コア CPI 上昇率は、事前の市場予想を上回り 2年 7ヵ月ぶりのプラスとなったが、8月の東京都区部では逆に前月よりも下落幅が若干拡大しており、上昇ペースが加速するような状況にはない。コア CPI は、既往の原油価格上昇の影響で電気代、ガス代の上昇幅が拡大することやガソリン価格が高止まりすることなどから、9月まではプラスの伸びを維持する公算が大きい。しかし、10月以降は昨年のたばこ税引き上げの影響剥落や円高の影響顕在化などから、再びマイナスに転じることが予想される。コア CPI の上昇が定着する可能性は低いだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。